

年 組 名前

【滋賀版】

帰ろうシベリア 飛び立つ翼

コハクチョウの群れ 北帰行

琵琶湖岸で冬を過ごしたコハクチョウがシベリアへ戻る、北帰行が始まっている。長浜市湖北町では「コオー、コオー」という甲高い鳴き声を掛け合った後、竹生島や雪化粧の山並みを背景に、飛び立つ群れの姿が見られる。

湖岸にはカメラを持った愛好家や家族連れらが訪れ、白い翼を広げ何十羽もの群れで飛び立つ姿に見入っていた。守山市の主婦藤井由美さん(60)は「こんなにたくさん群れを見たのは初めて。一斉に飛び立つシーンは迫力がありますね」と話した。

長浜市の湖北野鳥センターによると、今季の琵琶湖全域への飛来数は、一月十四日に過去最多となる九百二十四羽を記録。北帰するのは早朝や日没後が多く、例年三月中旬にはすべてのコハクチョウが琵琶湖を後にするという。

(横田信哉)



雪化粧した山並みを背に飛び立つコハクチョウの群れ＝長浜市湖北町で

【長野版】

コハクチョウ 北アに別れ 安曇野で北帰行始まる

越冬のため安曇野市の犀川白鳥湖や御宝田遊水池に飛来しているコハクチョウの北帰行が始まり、北アルプスの山並みを背景に群れになって大空へ飛び立っている。北帰行は三月末まで続く。

コハクチョウの保護活動を続ける市内の「アルプス白鳥の会」によると、シベ



北アルプスを背景に優雅に飛ぶコハクチョウ＝安曇野市の御宝田遊水池で

リアへの北帰行が始まったのは十五日。今季は昨年十月に初飛来し、飛来数のピークは今月上旬の約千二百羽だった。千羽を超えたのは二〇二二―二三シーズン以来で、新潟県などが豪雪に見舞われたことなどが影響したという。現在は計九百ほどが二カ所に滞在し、北帰行への準備で上空を旋回したり、水面でのんびりと羽づくろいしたり。青空が広がった二十日の御宝田遊水池にはカメラを手にした写真愛好者らが訪れ、安曇野市の無職手塚明子さん(53)は「コハクチョウの迫力ある瞬間を撮るのは難しい。また来年も来てほしいですね」と笑顔で話していた。

(高岡辰伍)

「コハクチョウ」に関する二つの記事を比べて読み、
問1～問4に答えましょう。

問1：冬を日本で過ごしたコハクチョウは、どこに帰るのでしょうか。（ ）

問2：【滋賀版】と【長野版】、それぞれの記事は、どこで取材されたのか、地名を書きましょう。

【滋賀版】 （ ）市（ ）町

【長野版】 （ ）市

問3：北帰行は、それぞれいつごろまで続くのでしょうか。

【滋賀版】 （ ）まで

【長野版】 （ ）まで

問4：【滋賀版】と【長野版】のインタビューで共通して使われている言葉は何でしょうか。（ ）

【活用にあって】

二つの記事を比べて読むときには、両者の共通点と相違点を見付けます。相違点については、なぜそのような違いが生まれたのか、その原因を考えるようにします。

このような学習をするためには、まず書かれていることを正確に読み取ることが何よりも大切です。書かれている一つ一つの事柄を確実に把握できていないと、思考につながりません。文章を読み、必要な情報をきちんと丁寧につかみとることは、野球で言えばキャッチボール、サッカーならパスといったような地道な練習を大切にすることです。

解答例

問 1 : シベリア

問 2 : 【滋賀版】 長浜市湖北町

【長野版】 安曇野市

問 3 : 【滋賀版】 3月中旬

【長野版】 3月末

問 4 : 迫力